笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３６４号
平成２８年１２月２２日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

八小らしい学芸会

副校長　後藤　大輔

１２月２日、３日に学芸会が行われました。当日は保護者や地域の方をはじめ、多くの方に御参観いただきました。参観後には多くの保護者の方々からアンケートをお出しいただき、地域の方々からもお声をかけていただきましたが、子供たちの演技や歌、お手伝いの６年生の頑張り等に、多くのお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございました。

「思い出に残る　八小らしい　学芸会にしよう」

これは、子供たちが考えた今回の学芸会のスローガンです。私自身、本校での学芸会は初めてでしたので、どんなところに八小らしさが表れていたのか、考えてみました。

一つ目は、子供たちが自分たちで劇を創り上げていったことです。教師が演技について細かに指導するのではなく、子供たち自身で台詞の言い方や動き方を考えながら練習しました。だからこそ本番で生き生きと演じることができていたのだと思います。

次に、６年生や代表委員が意欲的にお手伝いをして学芸会を支えていたことです。６年生は「司会進行」「舞台」「照明」「会場」の係に分かれ、学芸会を支えました。代表委員はスローガンを考えたり、「幕を開ける歌」を舞台で歌ったりしています。これらの仕事も、子供たちは教師から指示があったことをやるだけではなく、自分たちで考え、「もっとこうするとよいのではないか。」と話し合いながら取り組んでいました。運動会等、学校行事で高学年の児童がお手伝いをすることはありますが、学芸会では暗い会場や舞台の袖といった、目立ちにくい場所での仕事となります。そんな状況でも子供たちはしっかりと責任を果たしていました。保護者アンケートにもその頑張りをお褒めいただいたものが多く、保護者の方々にも６年生や代表委員の頑張りが伝わったことを嬉しく思います。

ソロで歌う場面が多かったことも、八小らしさかなと思っています。大勢のお客さんの前でソロで歌ったり演じたりすることは、恥ずかしかったり自信がもてなかったりして、なかなかできることではありません。しかし、一人一人の頑張りを認め合える雰囲気があるからこそ、「頑張ってソロで歌ってみよう。」、「演じたい役をやってみよう。」、という気持ちになれるのだろうと思います。男性の役を女子が、女性の役を男子が務め、伸び伸びと演じている場面が多かったことにも、その雰囲気が表れています。３年前の学芸会では、ソロで歌う場面はあまりなかったそうです。お互いの頑張りを認め合う雰囲気は、きっと八小に受け継がれているものなのでしょう。

平成２８年（２０１６年）がもうすぐ終わろうとしています。一年間を振り返る時期です。お子さん一人一人の「らしさ」を一番よく知っているのは保護者の方々です。お子さんの「らしさ」という視点で一年を振り返り、「らしさ」が発揮された一年だったのか、今後伸びてほしい「らしさ」はどんなところなのか、考えてみてはいかがでしょうか。

本校はこれからも、様々な場面でのよき「八小らしさ」を受け継ぎ、よりよいものになってくよう教育活動を進めていきます。光っ子たちの健やかな成長のため、学校も家庭も同じ思いをもって子育てを進めていきましょう。来年も本校の教育への御理解と御協力をよろしくお願いします。